令和４年度　第１回市長と能ん美りカフェトーク

九谷焼技術研修所研修生との市長と能ん美りカフェトーク

日　　時　　令和4年6月22日（水）15時～

場　　所　　九谷焼技術研修所

参加人数　　5人

１）司会　挨拶

・これまでも、市民の皆さんの意見をお聞きして市政に反映させていく場としてタウンミーティングを行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、なかなか大規模な会合というのが難しい状況が続いている。市ではそんな中でも、できるだけ市民の方の声をお聞きする場を設けたいと思い、今年度より「市長と能ん美りカフェトーク」を行っている。

・少人数ならではの雰囲気の中で、皆さんの気になることや関心のあることについて、ぜひご意見やご質問をいただければと思う。

２）市長　挨拶

九谷焼、皆さんにとってどんな印象をお持ちなのかなと思います。私が洋食器の製造をしていた頃は、結婚式の引き出物というと、ペアカップ・ソーサーですとか、お皿の５枚組が売れていた時代ですが、今では輸入品が安価に入ってきたり、生活様式が大きく変わってきている。例えばハンバーガーを食べるときに恐らくお皿を使って食べないんじゃないか。飲み物を飲むのにも、そのままのパッケージで飲むという時代です。

九谷焼というのはどちらかというと床の間に大きなつぼや大きなお皿を飾る、そんなものが得意な焼き物でしたけれども、新しい家にはほとんどそういった飾る場所がないそんな時代になってきている。

じゃ、皆さんの先行きが真っ暗かというと、決してそうではないと思っていまして、ゴールデンウイークに３年ぶりに九谷茶碗まつりが開催をされました。そのときには、大変多くの方々にこの能美市に訪れていただきましたし、そして今、九谷焼は中国で大人気であります。特に手の込んだ九谷焼が大変今、中国で人気だそうで、この間の茶碗まつりの

ときにも中国人のバイヤーがお店に来られて、ごそっと買っていかれたという話もあります。

九谷焼の作家さんで人気の方々は、半年、１年待ちという方も中にはいらっしゃるということで、決して皆さんが今学んでいらっしゃる九谷焼というのはお先真っ暗じゃない。必ずや皆さんが一生懸命勉強されたことだとか夢がかなうのが九谷焼だろうと思います。

能ん美りカフェトークですので忌憚のないいろんな話をさせていただければなと思います。

３）自己紹介

【参加者Ａ】　大学ので日本画を勉強していて、その影響で絵付のほうに興味が出てきて、九谷焼を知り、茶碗まつりが盛況だなと思って、これはいけるなと思って来ました。

【参加者Ｂ】　大学では野生動物のことについて勉強しておりましたが、陶芸教室に通っているうちに陶芸の楽しさというものを感じてきまして、雑誌で見た九谷焼が非常に美しかったので、この研修所で九谷焼を本格的に学んで仕事にしようと、そう思い来ました。

【参加者Ａ】　高校３年生のときに、テレビで九谷焼を見て、やりたいなと思ってこちらに来ました。

【参加者Ｄ】　特にデザインとかそういったこと全くやったことなくて、高校も大学も工業系を出てて、あと就職もステンレスの加工だったりとか、その前は飲食をやっていたんですけれども。その飲食していたときに、今は趣味でやっているんですけれども、そのときにいろいろと道具をこだわる傾向が自分にありまして、そのときに包丁だとかいろんなものを趣味として集めるうちに、九谷焼というのに出会いまして、それの可能性というのはすごく面白そうだなと思って、実際自分でも作ってみたいなと思ってこちらのほうに入校しました。

【参加者Ｅ】　生粋の能美っ子なので。もともと九谷焼というのは小さい頃から身近な存在だったので、自分がものづくりが好きというのもあって、おのずとこういう形で研修所に来た感じです。

４）カフェトーク

〇九谷焼への支援制度について

【参加者Ｄ】　能美市が九谷焼業界に関して何か支援をしているものが、自分たちの中で

は１個２個は思いつくんですけれども、全貌を知らない。具体的にどのようなことをやっているかご説明をいただければと思います。

【井出市長】　九谷焼業界全体を支援する。例えば商品が売れるようにするという意味では、ホームページ等々で九谷焼のことを紹介をしたり、大都市圏で九谷焼に接するような機会をつくったり、それから観光客の方々がこの能美市に来られたときに九谷焼ってすばらしいな、ということを感じてもらえるように、例えばそこにある美術館だとか陶芸村の整備をやっています。

それから、担い手を増やしていく策とすると、この九谷焼技術研修所を卒業して市内の企業さんに就職された場合に、その企業さんに対して支援金を出したり、起業、いわゆる自分で何か会社を起こしたいとか、お店を持ちたいという場合にまた支援金を出すそんな制度を設けています。

【参加者Ｄ】　ありがとうございます。

【参加者Ｅ】　事業者の方に支援金は出されていますけれども、この時代独立されて個人でされる方も多いと思うんですけど、そういう支援金は。

【井出市長】　あります。いろいろメニューがありますので、また後から詳しくご紹介します。

ただ、幾らいい作品を作っていても、それを見てもらう機会がないと売れていかないから、そこをどうしていくのかというのがいろいろ苦労している。最近感じているのは、九谷焼ってネットでいい写真、画像、映像を撮って配信しても、リアルで手に取ってもらうことにはかなわないなというのがあって、できるだけリアルで皆さんが作ったものを見ていただけるような機会を増やしていきたいとは思っています。

使うものであれば、マグカップであれば手を入れて、コーヒーなりお茶なり入れたときに重く感じないとか、ソースだとかしょうゆを注ぐ器なんかでも、上げたときに垂れないようにどう作るかとか。こんなことというのはやっぱり映像や画像だけじゃ伝わらない。実際に使ってみて初めてその良さが分かるというのが私はこの九谷焼だと思うんで、そうやってリアルで接してもらえるような機会を増やしていきたいと思っています。

〇公共交通について

【参加者Ｂ】　今年から引っ越して来たんですけど、この辺りバスがもうちょっと増えてくれないかなと。小松駅もそうですし、ちょっと何かお出かけしようと思ったときにバス

があと２時間後とか、下手すると。

【井出市長】　たくさん利用者がいると10分に１本だとか30分に１本出せるんだけれども、利用者数を分析するとなかなかそこまでいかないというのが実態で。だから、そういったあんまり使わない人たちにも使ってもらえるような、何か新たな仕掛けみたいものをつくっていければなという思いはしています。

だから、具体的に１か月の間でここからこういった利用を何回ぐらいするよというようなことを教えていただけると、我々もそういう需要があるんだなということが分かるんだけれども、実態を見ていると皆さんあんまり乗ってないというのが。

だから、これ裏腹なんだよね。10分に１本出ていればもっと使ってもらえるかもしれないんだけど、なかなか人口５万人ぐらいの都市になると、ほとんどの人が車を持ってて、車で移動されるほうがみんな便利だから、どうしても公共交通機関って使う頻度が減っていくという裏腹になっていて。

ただ、今、Ｂさんがおっしゃっていただいたような需要もあると思うんで、何かそういった方々にも使ってもらえるような別の仕掛けは考えていきたいなと思います。

〇環境について

【参加者Ａ】　私も今年から来たんですけど、ちょっと思ったのは夜道が暗いなと。

【井出市長】　夜道が暗い、なるほど。

【参加者Ｂ】　後ろのところに熊が出たみたいな話を授業中に聞いたんですけど。

【井出市長】　今年はここにはまだ出てないんだけど、出たかどうかというと、見つけたという人はいたかもしれないな。なるほど、暗い。

【参加者Ａ】　そうです。夜出かけるときはちょっと怖いなというのはあります。

【井出市長】　今、街灯は本数を増やし、ＬＥＤ化に順次していっています。少し明るくします。分かりました。明るくします。

〇広報のみについて

【参加者Ｃ】　私は、聞きたいことじゃないんですけど、ありがたいなと思っているのは、20％オフ、10％オフ券みたい、食事券とかお買物券が、すごい能美市おいしいご飯屋さんが多いから、パンフレットになって来て知れるのと食べる機会があるのがうれしいです。でも、バスの本数は大丈夫なんですけど、終バスの時間が早い。新幹線とかで帰るときに、

やっぱりお昼とかに帰らないと間に合わないので、難しいのは分かるんですけど。

【井出市長】　終バスの時間か、本当だね。皆さんに聞きたいんだけど、広報のみって読んでますか。広報のみの一番後ろにのみ応援特典券といって、2,000円券だとか1,000円券がついていたのを知っている人。――知らない？　ショックだわ。広報のみ見ない？

【参加者Ｄ】　ぱらっと、こう。

【参加者Ｂ】　そうですね、ざっと見て、しまうって。

【井出市長】　しまう。でも、表紙に「のみ応援特典券が付いています！」って表紙に書いたんだよ。

【参加者Ｂ】　何か月１くらいで冊子みたいのが届くんですけど。

【井出市長】　そうそう、それそれ。分かりました。そこにはお得な情報もいっぱい入っているから、逃さないように見ていただいて。

【参加者Ｂ】　そうします。

【井出市長】　でも、家には行ってない？　届いてない？

【参加者Ａ】　届いているかもしれないですけど、見てないですね。

【井出市長】　ショックだな。これを今、もっと皆さんに見ていただけるように大幅リニューアル中でございますので、ぜひ見ていただければなと思います。

〇アルバイト支援、フリーマーケットについて

【参加者Ｄ】　２つほど。

まず１点、就職支援とか、あと個人で起業するときの支援とがされているという話はされていたんですけれども、実際自分たちがここに来て、まず経験することというのはアルバイトなんです。九谷業界でアルバイトを募集するというのはすごくチャレンジャーなことで、特に研修生１年生とかってすごく本当はやりたいんですけれども、特に県外の人とかというのは必ずアパートを借りて生活するんで、毎月のある程度の収入もないとつらいというのもあるんですが、例えばそれで違うアルバイトをやってとなると、どうしても本業のほうに集中できなくなっちゃう。それがもし九谷業界のアルバイトだったら、本業といわゆる勉強、九谷業界の勉強も兼ねてということができると思うので、そういったところの支援というのをしていただけると、恐らく研修所に来たときにすごく伸び代も伸びるし、そういうのは自分も入ったときすごく経験しました。

２年生になって初めてアルバイトというのができたんですけれども、それは１年のある

程度学習できた人間が、じゃ、アルバイトに来てっていうような感じで、１年生を本当募集しているところって余りないんですよ。そういったところを支援していただけると、知識とか技術とかそういったところも増えるし、雇うほうも支援があれば、じゃ、ちょっと雇ってみようかなって思ってくれると思うんで、それお互いにウィン・ウィンになるんじゃないかなというふうに思いました。

もう一つなんですけれども、九谷焼って結構新しい文化でもあるので、買おうと思うと大体新品のものばっかりなんですね。新品はもちろん買えるのはすごくありがたいですけれども、古いものもいいものがあったりとかして、そういったものを売っているところとなると大体ネット、フリマアプリとかになってくるんですけれども、先ほど言われた手に持ってというものがやっぱり味わえないので。

僕はよく経験したことあるのは、富山に月に１回のみの市ってあって、朝一から、６時ぐらいからやられていて、いろんな人が来られて、家にあるそれこそ骨董品みたいなものを売ってくるというスタイルのところがあるんですけれども、そういうのって結構今ここら辺に住んでいる方ってかなり家に九谷焼持っていらっしゃる方って多いと思うんです。そういったのがのみの市としてあると、実際に自分たちもそうやって古いものを見たり触ったりすることもできるし。のみの市って結構やっぱり集客率も大きいので、東京とかだとのみの市ってすごく大きくやられているところがあると思うので、やっていただけるといいんじゃないかなって思っていました。

【井出市長】　なるほど、分かりました。

まず、アルバイトというのは、例えば箱詰めでもいいのか、伝票整理でもいいのか、なんでもいいのか、それともやっぱり九谷焼の製造に携わるアルバイトがいいのか、どっちなんだろう。

【参加者Ｄ】　そこまでこちらとして選べる権利があるのか難しいところなんですけれども、せっかく雇っていただけるというのに、こっちからより好みするというのも申し訳ない。例えばその人の能力によって最初は箱詰めだったりとか、店頭販売の募集だったりとかってあるかもしれないですけれども、本人がそれが嫌だったら多分辞めるかもしれないし、そこはバランス大事かなと思うんですが。恐らくここに研修で来ている人はみんな作りたい、もしくは描きたいって思っているので、そっちのウエートで補助していただけると。結構、作家さんとかでもアルバイト募集したいんだけど、なかなかそこまで雇える財力もないとか、そういったものがあるかもしれないので、そういうのがあるともう少し有

名な作家さんも、じゃ、ちょっと採ってみようかなとか、そういうきっかけになるんじゃないかなと思います。

【井出市長】　もちろんそういった需要がないかというのは調べてみるけれども、実態からするとなかなか研修所で学んでいらっしゃる人たちに自分の作品の補助をしてもらうというのは難しいだろうね。ある程度技能レベル的に完成された人にやってもらうということなんだろうと思うから。だから、研修所というこういった学ぶところがあるわけで。

アルバイトって、何年か働いていらっしゃるのでもちろんいろんなことを経験されているんだろうと思うけれども、やっぱり社会人になる前にいろんなことを経験するのも必要かなって思うんだよね。ご自身が作って、物を売るというときに、作ることだけで物って売れるわけじゃないから、いろんなことを経験する、いろんな人と接するということで、学んだこと以外のことを社会で経験するということはいろんな意味でプラスになると思う。何かそこは九谷焼に直接従事するということ以外でいろんなことを経験されるのも大切なんじゃないかという思いはあります。

ただ、今おっしゃっていただいたようなそんな意欲のある人が研修所にはいるから、ちょっと雇ってみない？というような声がけみたいのは、今度、業界の人にはしてみたいなと思います。

【参加者Ｄ】　ぜひお願いしたいです。

【井出市長】　それから、のみの市というか、フリーマーケットを今までやっていたんです。ところが今、感染症の影響でちょっと下火になっていますけど、五彩館の向かって左側の空き地のところで手づくりの達人市とかがあって、そのときは確かにやっぱりすごい人が来ていたんで。

【参加者Ｄ】　自分もたしかそれは行ったことあります。

【井出市長】　それはおっしゃるとおりで、ちょっと今下火になっていますけど、必ず復活すると思いますから。

【参加者Ｄ】　ぜひ、またそういう機会あったら、お願いします。

〇将来の目標について

【井出市長】　将来、どんな職人さん、どんな作家さんになりたいと思っていらっしゃるんですか。

【参加者Ｂ】　僕はできるだけ大物になりたいと思って。

【井出市長】　大物。あんな人になってみたいというような憧れの作家さんていらっしゃるの。

【参加者Ｂ】　福島武山先生です。

【井出市長】　先生の作品見るとやっぱりほれぼれするし、今日本中から注目されているしね。なかなかお目が鋭いというか。でも、あの世界というのは一生懸命やらないとあこへ行けないけど、細く字書いたり、線描いたりするのは結構得意なんだ。

【参加者Ｂ】　まだ全然、自分はそういう技術系のところとか出てないんでまだ未熟なんですけれども、根性で頑張ろうと思います。

【参加者Ｃ】　興味を持ったのは見附さんの赤絵だったんですけど。見附正康さんの作品に興味を持ってこっちに来たんですけど、授業を受けていたら和絵具すごい楽しくて、柴田有希佳先生、すごく好きで。

【井出市長】　なるほど。どういったところに魅かれたんですか。

【参加者Ｃ】　授業を受けてから、こんなに繊細に線って表現できるのはすごいなって。自分がやってみて難しさがわかって、できるのはすごいなって思いました。

【井出市長】　九谷焼って作品だけ見ていると、これにどれだけの人の技量が入っているかって分からないんだけど、いざ自分がやってみると、この作品ってすごい作るの難しいんだって分かるんでね。

しかも、生地が1,200度とか1,300度ぐらいで焼くわけで、20％ぐらい縮むわけじゃん。それから、絵も850度ぐらいで焼くわけだから、焼く前の色と焼き上がりの色が全く違うわけなんで、ああいうのって分かってないと作れないし、やっぱり窯から出したときの状態が、例えば完璧に仕上がっていたなと思っていても、こんな黒いプツが一つ落っこちていただけで、それはＢ級品になっちゃうわけだしさ。それから、釉との相性だとか、いっぱい色んなことを、高温の中でつくり上げていかなくちゃならないというこれが大変で、逆に言うと、それが九谷焼の価値なんだろうな。

そういったところが分かるというのはやっぱりすごいよね。

【参加者Ａ】　まだ九谷焼を知って１年たってないので、あんまりインプットできてないんですけど。でも、自然が好きというか、写生はずっとしてきたんで、そういうのを生かした方向には行きたいなという感じですね。

【参加者Ｅ】　好きな方はたくさんいらっしゃるんですが、山本長左先生とか。

あと食器を作っている方ですけど正木春蔵さん、染め付けと上絵を組み合わせた食器が

すごい好きで。使いやすい食器を作る作家になれればいいなと思っています。

【井出市長】　やっぱりブルーの色って釉薬を通すことによって深みが出るから、やっぱり山本長左さんの作品というのは奥深さがあるよね。それとシェープが、やっぱり何となく腹筋していると、これくらい腹筋するのって結構大変。これだけするのは楽なんだけど。だから、お皿なんかでもリムが地面から少ししか離れてなくてピーンとしているのは作るの難しいんだよね。だから、これくらいのものを作るのは楽なんだけど、これぐらいのものでピーンとこうなっているものを作るのは結構大変で、伏せたときに隙間がないものをいかに作るかというのは難しいんだけど、長左さんのしたものって、あれを超えた味の面白さ、形の面白さってあるね。

〇最後に

【井出市長】

我々は今KUTANismといって小松市と一緒になって２年後に来る北陸新幹線の県内全線開業に合わせて九谷焼を核にして新幹線の開業効果をどんどん高めようという取組をしています。それは、九谷焼を大都市圏の人たちに見てもらうことによって、あっ、この器で食べてみたい。石川県に来て九谷焼を使った器で食事をしてみたいとか、この作品を作っている人に出会ってみたいとかって、そうやって九谷焼を核にしたそんな新幹線開業効果を高めようとやっています。

今年度は東京と大阪に皆さんの作品を持っていって、見てもらって、それでこっちに来てもらうような仕掛けをしようということをしたりしている。それは１週間とか２週間ぐらいの期間だけだから、それを写真撮って、またフォローするとかいうこともしようかなと思っている。

だから、そんなこともいっぱいやっているんで、まず自分たちがここで学んでいることをさらにプラスになるようなことを我々がやれるんだったら、こんなことをしてほしいということでもいいし、不便だとかということがあれば、すぐには改善できないかもしれないけど、少しずつよくすることもできるし、能美市民は自分のふるさとのことを好きになって、皆さんに能美市っていいよってもっと言ってもらって、お父さんもお母さんも兄弟もみんな能美市に一緒に住んでってというような風につなげていきたいと思います。

５）閉会